

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

# 交通安全

GRI103-1

## 交通安全の方針・考え方

クルマが広く普及したことで私たちの暮らしは大きく変わり、多くの人々がモビリティによる自由や利便性、そして運転する楽しさを享受してきました。近年の自動車業界の技術革新はめざましく、自動運転やそれを構成する運転支援技術は急速に進歩しつつあります。高齢化、高度な都市化の進行など、世界は大きな転換期を迎えています。クルマの技術革新は、都市における渋滞の解消や高齢者が安全で円滑に移動できる社会の実現など、さまざまな課題の解決に貢献することが期待されています。

日産は“走る楽しさと豊かさ”を体現するクルマづくりに取り組むとともに、リアルワールド（現実の世の中）における高い安全性を最優先に考えています。交通事故の原因の9割以上が人為的ミスといわれる中、日産が目指しているのは、日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」です。この目標の実現に向けて、自動運転技術の搭載をはじめとするクルマそのものの安全性向上はもちろん、ドライバーや歩行者などに安全意識を高めてもらうための啓発活動、さらにはより安全で快適なモビリティ社会の構築に幅広く取り組んでいます。

GRI103-2

## 交通安全のマネジメント

日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」を目標として掲げる日産は、2004年から開発部門を中心に、クルマが人を守るという独自のコンセプト「セーフティ・シールド」を基本とした技術開発に取り組んできました。乗員が危険に近づかないようにする技術、衝突を防ぐ技術、万が一衝突が避けられないときも被害を軽減する技術を開発し、すでに多くの車種に搭載しています。現在は、こうした予防安全技術からさらに進化させた自動運転技術の実用化に取り組んでいます。

また、人々に交通安全への考え方を理解してもらうため、安全意識の向上に向けた啓発活動、ドライバーの運転技術向上を支援する活動にも注力しています。さらに、官公庁、大学、他企業と連携しながら、より安全で快適なモビリティ社会の実現を目指していきます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

## 交通安全実現への活動目標： 日産車のかかわる死者数を実質ゼロにする

安全に対する日産の方針は、リアルワールド（現実の世の中）における安全性を追求することであり、目指しているのは「交通事故のない社会」です。

日本の2020年の交通事故による死者数は2,839人と2019年より376人減少しましたが、なおも2,000人以上が交通事故で亡くなっています。また世界保健機関（WHO:World Health Organization）は、世界全体で毎年約135万人が交通事故で命を落としており、今後緊急に対策をとらなければ2030年までには死亡原因の7位になると予測しています。

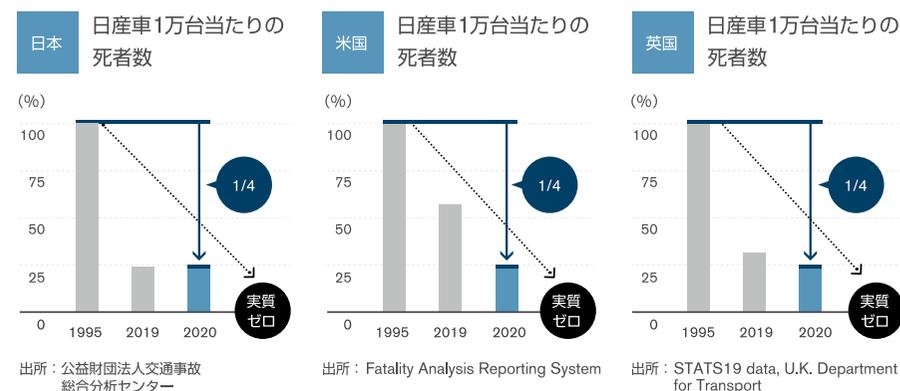
日産は、日産車がかかわる死者数を2015年までに1995年比で半減させることを目指し、2020年までに日本、米国、英国でさらに半減させるという高い目標に向かって活動を続けてきました。2019年時点では、日本で目標達成に至っていますが、米国、英国ではさらなる活動が必要な状況です。死者数を実質ゼロにするという日産の究極の目標へ向けて、今後も取り組みを続けていきます。

## 交通安全実現への取り組み： トリプルレイヤードコンセプト

交通事故を低減させ、日産の掲げた目標「ゼロ・フェイタリティ」を実現するには、クルマの安全技術を進化させ、その機能を多くのクルマに適用・拡大する

ことはもちろん、人や交通環境も含む総合的な取り組みが必要です。真に安全なクルマ社会の構築に貢献するため、日産は「クルマ」「人」「社会」という3つの階層に取り組む「トリプルレイヤードアプローチ」を推進しています。

### 日産の取り組み 「クルマ」「人」「社会」という3つの階層に取り組む トリプルレイヤードアプローチ



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-3 GRI416-1 GRI417-1

## 交通安全への取り組み

### クルマ：安全技術開発への取り組み

お客さまに安心して運転を楽しんでいただくために、日産ではすべてのブランドの車両が安全に関する法規制などを遵守するのはもちろんのこと、「セーフティ・シールド」という独自の考え方のもと、できるだけ乗員を危険に近づけないようにクルマが支援する技術開発を進めています。

クルマが人を守るという独自のコンセプト「セーフティ・シールド」とは、クルマが置かれている状態を「危険が顕在化していない」「危険が顕在化している」「衝突するかもしれない」「衝突が避けられない」「衝突」「衝突後」の6段階に分けて捉え、各状況に応じてクルマが人を守るさまざまな技術の開発を進めていくという考え方です。日産はこのコンセプトを基本に、安全技術の開発を進めています。

### 日産の安全技術の拡充と獲得した外部評価

2015年1月に「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」の採用車種を拡大し、2015年度末には、日本で発売している電気自動車、商用車を含むほぼすべてのカテゴリーで搭載を完了するとともに、主要車種への標準装備も完了しました。北米では、「パスファインダー」「アルティマ」「ローグ」などのモデルに標準装備、欧州では「ジューク」「エクストレイル」「キャシュカイ」「マイクラ」などの主要車種に採用しています。

また、各地域で行われている公的機関および政府による試験において、高い安全評価を獲得しています。特に日本では、2020年度よりJNCAP\*1は新たに「自動車安全性能2020」として、衝突安全性能評価と予防安全性能評価および事故自動緊急通報装置の3つによる総合評価となり、総合評価最高の5★を獲得するには、それぞれの評価で最高ランク（事故自動緊急通報装置は装備要件）の獲得が必要となりました。この総合評価において「日産デイズ」は軽自動車でも唯一、最高の5★を獲得。トータルな安全性の高さが実証されました。また2018年度より開始された国土交通省による先進安全技術の性能認定制度においても、2020年度から対象となる自動車や装置が拡充され、「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」「ペダル踏み間違い急発進抑制装置」を装備した9車種（「日産デイズ」「日産ルークス」「ノート」「セレナ」「日産リーフ」「マーチ」「クリッパー」系）25型式が認定を受けました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

## 主な外部安全評価結果(2020年評価分)

地域	外部評価	車種	レーティング
日本	JNCAP*1 「自動車安全性能2020」	「日産デイズ」	総合5★
		「日産キックス」	総合4★
米国	NCAP*2	「日産リーフ」「リーフプラス」「ムラーノ」 「アルティマ」「マキシマ」「セントラ」 「ヴァーサ」「ログスポーツ」	総合5★ (2021モデルイヤー)
		インフィニティ「QX80」「フロンティア(クーレキャブ)」 「タイタン(クーレキャブ)」 「ローグ」「日産キックス」	総合4★ (2021モデルイヤー)
	IIHS*3	「マキシマ」「アルティマ」「ローグ」「ムラーノ」 「セントラ」	2021 Top Safety Pick+ 2021 Top Safety Pick
中国	C-NCAP	「ティアナ」	5★

\*1 JNCAP: Japan New Car Assessment Program の略。国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)による自動車アセスメントプログラム

\*2 NCAP: New Car Assessment Program の略。米国運輸省道路交通安全局(NHTSA: National Highway Traffic Safety Administration)の新車アセスメントプログラム

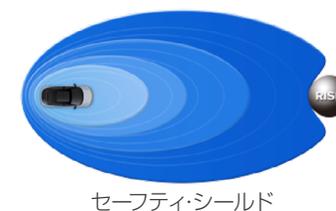
\*3 IIHS: Insurance Institute for Highway Safety の略。米国道路安全保険協会

## “ぶつからないクルマ”の実現に向けて

日産は、「セーフティ・シールド」のコンセプトのもと、危険予防から危険回避、そして乗員保護までのトータルな観点で、それぞれのシーンで乗員の安全をサポートします。

例えば、通常走行時や駐車時には、ドライバーが視認しにくい周囲の車両や歩行者などをセンサーやカメラがモニターし、いつでも安心して運転できるようにドライバーをサポートします。また、危険な状態になりそうなときも、クルマが瞬時に判断して危険回避をアシストします。

世界中すべての人に最適なモビリティを提供することを目標に掲げている日産は、安全技術を広く迅速に普及させていくことも自動車メーカーとしての使命だと考えています。



セーフティ・シールド

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

<p>危険が顕在化していない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロパイロット</li> <li>■ プロパイロット パーキング</li> <li>■ インテリジェント ベダル</li> <li>■ インテリジェント クルーズコントロール (全車速追従・ナビ協調機能付)</li> <li>■ アクティブAFS</li> <li>■ インテリジェント アラウンドビューモニター</li> <li>■ インテリジェント ルームミラー</li> </ul>	いつでも安心して運転できるよう ドライバーをサポートする技術
<p>危険が顕在化している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インテリジェントFCW (前方衝突予測警報)</li> <li>■ LDW (車線逸脱警報)</li> <li>■ インテリジェントLI (車線逸脱防止支援システム)</li> <li>■ BSW (後側方車両検知警報)</li> <li>■ インテリジェントBSI (後側方衝突防止支援システム)</li> <li>■ インテリジェントBUI (後退時衝突防止支援システム)</li> <li>■ インテリジェントDA (ふらつき警報)</li> <li>■ RCTA (後退時車両検知警報)</li> </ul>	危険な状態を回避するよう ドライバーをサポートする技術
<p>衝突するかもしれない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インテリジェント エマージェンシーブレーキ</li> <li>■ ABS (アンチロックブレーキシステム)</li> <li>■ VDC (ビークルダイナミクスコントロール)</li> <li>■ 踏み間違い衝突防止アシスト</li> </ul>	
<p>衝突が避けられない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト</li> </ul>	
<p>衝突</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ゾーンボディ</li> <li>■ SRSエアバッグシステム</li> <li>■ ポップアップエンジンフード</li> </ul>	万が一衝突が避けられないとき に被害を最小限にとどめる技術
<p>衝突後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ エアバッグ展開連動ハザードランプ</li> <li>■ SOSコール (ヘルプネット)</li> </ul>	

## 最新の安全技術\*

\*各技術の名称や機能は日本市場のものです

### 危険が顕在化していない

#### プロパイロット

「プロパイロット」は、アクセル、ブレーキ、ステアリングをシステムが自動で制御し、運転操作を支援します。「プロパイロット2.0」は、高速道路の複数車線においてナビゲーションシステムと連動して設定したルートを行き、ドライバーが常に前方に注意して道路・交通・自車両の状況に応じ直ちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて同一車線内でハンズオフが可能となり、ドライバーの運転操作を幅広く支援します。また、ナビゲーションと周囲360度のセンシング情報に基づいて、ルート走行中の分岐や追い越しのための車線変更の適切な開始タイミングをシステムが判断し、ドライバーに提案します。そして、ドライバーがハンドルに手を添え、スイッチ操作で承認することで、車線変更支援を開始します。

#### プロパイロット パーキング

ステアリング、アクセル、ブレーキ、シフト、パーキングブレーキをすべてシステムが自動で制御し、駐車完了するまでドライバーをアシストします。駐車スペースに合わせ、後向き駐車、前向き駐車、縦列駐車を選択することができる最先端の駐車を支援する技術です。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

### インテリジェント アラウンドビューモニター(移動物検知機能付)

車両を真上から見下ろしているかのような映像によって自車と駐車位置の関係を示し、スムーズな駐車をサポートします。また、車両周辺の動く物体を検知してドライバーの注意を喚起することで、車庫入れ時や駐車スペースからの発進時の安全確認をサポートします。

### インテリジェント ルームミラー

スイッチをオンにすると、ルームミラーが車両後方のカメラによる映像に切り替わり、車両後方をクリアに映し出します。荷物や乗員といった車内の状況や天候に左右されず、また夜間にはカメラの感度をアップさせるなどして、常にクリアな後方視界を提供します。

## 危険が顕在化している

### LDW(車線逸脱警報)／インテリジェント LI(車線逸脱防止支援システム)

LDWは、車両が走行車線をはみ出す可能性がある場合、メーター内ディスプレイへの警告表示と警報音で注意を喚起します。さらにインテリジェント LIにより車両を車線中央に戻す力を短時間発生させ、ドライバーにクルマを車線内に戻す操作を促します。

### BSW(後側方車両検知警報)

死角になりやすい隣接レーンの後側方を走行する車両を検知すると、ドライバーに表示で知らせ、さらにウインカーを作動させた場合には、音と表示によりドライバーの注意を喚起します。

### インテリジェントBSI(後側方衝突防止支援システム)

死角になりやすい隣接レーンの後側方を走行する車両を検知すると、ドライバーに表示で知らせ、さらに車線変更を開始した場合には、警報とともに車両をもとの車線内に戻すような力を発生し、隣接レーンの車両との接触を回避するようアシストします。

### インテリジェント DA(ふらつき警報)

ハンドル操作へのドライバーの注意力が低下していると判断したときに、メーター内のディスプレイ表示とブザーにより、ドライバーに休憩を促します。

### RCTA(後退時車両検知警報)

後退時に後方を横切ろうとする車両に衝突する恐れがあるとき、警報によりドライバーの注意を喚起します。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

## 衝突するかもしれない

### インテリジェント エマージェンシーブレーキ

フロントカメラで前方の車両や歩行者を検知し、衝突の可能性が高まるとメーター内ディスプレイへの警告表示とブザーで注意を喚起し、ドライバーに回避操作を促します。万が一、ドライバーが安全に減速できなかった場合には、システムが緊急ブレーキを作動させて正面衝突を回避、または衝突時の被害を軽減します。

### 踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、ソナーで進行方向にある壁などの障害物を検知し、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれるなど衝突する恐れがあるとシステムが判断すると、音と表示でドライバーに警告するとともに、エンジンやモーター出力の抑制とブレーキ制御により、衝突を回避または被害を軽減します。また、日産の事故分析結果では、踏み間違い事故の発生は駐車操作中だけではなく、駐車場以外の道路や走行中の発生も多いことが分かっています。最新の踏み間違い衝突防止アシストでは、ルームミラー上部に設置したカメラにより前方車両や歩行者の検知も可能とし、低速走行時（時速約25km以下）まで作動範囲を拡大することで、より広いシーンでドライバーをサポートします。

## 運転支援技術：プロパイロットの普及拡大

2016年より製品化したプロパイロットは、2019年9月には、新型「スカイライン」のハイブリッド車に世界初の先進運転支援技術「プロパイロット2.0」を標準装備として搭載しました。2019-2020日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいてイノベーション部門賞、RJC カー オブ ザ イヤーにおいてRJC テクノロジー オブ ザ イヤーを受賞するなど高い評価を得ています。今後発売予定のエリアをはじめ、さまざまな車種へ搭載を拡大していきます。

日産は「プロパイロット」の採用をグローバルに、かつ幅広い車種へ広げており、日本では「セレナ」「日産リーフ」「エクストレイル」「日産キックス」「ノート」、米国およびカナダではインフィニティ「QX50」「ローグ」「ローグスポーツ」「アルティマ」「日産リーフ」、欧州では「日産リーフ」「キャシュカイ」「エクストレイル」「日産ジューク」、そして中国では「アルティマ」「エクストレイル」「キャシュカイ」「QX50」へ搭載してきました。さらに軽自動車として初めて新型「日産デイズ」に搭載し「日産ルークス」へと採用を拡大、搭載車の販売台数は2021年3月末までに累計111万台を突破しました。2023年度末までに「プロパイロット」を20車種に搭載し、20の市場に投入する計画を発表しており、「プロパイロット」搭載車の販売台数は2023年度末までに年間150万台になると見込んでいます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-3 GRI416-1

## 予防安全技術から自動運転技術へ

事故を回避するために必要な、センシング・認知・判断・操作という基本的な4つのステップを支援する予防安全技術の機能を拡充し、さらなる進化を目指したのが自動運転技術です。日産は、「交通事故ゼロ」の実現には、事故原因の9割以上といわれる人為的ミスをクルマがサポートする自動運転技術が有効であると考えています。

ミリ波レーダー、レーザーセンサー、カメラなどのセンサーを搭載した自動運転技術の実験車両は、周囲360度の状況を常に把握。他のクルマに遭遇すると、蓄積された知識データの中から人工知能がその場に合った適切な行動を選択します。信号機のない交差点への進入や駐車車両の追い越しなど、複雑な運転環境においても正しく状況を認知・判断し、安全な走行を実現しています。

日産はグローバルで自動運転技術の実証実験を実施しており、2019年には英国のHuman Driveプロジェクトにおいて郊外路、高速道路、都市部の道路といった幅広い英国特有の道路環境で、370km走行しました。

高齢化や都市の過密化など多くの課題に直面する社会において、自動運転技術は事故の大幅な低減に貢献し、多くのドライバーに安心を提供するだけでなく、急速に増加する高齢者にとっては移動機会の拡大にもつながります。日産は、自動運転技術をモビリティに新たな価値をもたらす画期的な技術だと考え、積極的に開発を推進し、実用化を進めています。

## 人：交通安全活動の推進

より良いモビリティ社会を構築するためには、ドライバーや乗員、歩行者、自転車運転者など多くの人々に交通安全への考え方を理解してもらうことが大切です。日産では安全意識の向上に向けた啓発活動や、ドライバーの運転技術向上を支援する活動にも力を注いでいます。

### 日本での取り組み

日産は交通安全活動「ハローセーフティキャンペーン」\*1の一環として、1日のうちで交通事故発生件数が最も多くなる時間帯が16～18時の夕暮れ時ということから、ヘッドライトの早期点灯をドライバーに促す「おもいやりライト運動」\*2に2010年から参画。市民活動を活用した双方向のコミュニケーションによる安全啓発活動を推進しています。

また、運動機能工学を専門とし地域を巻き込み交通安全を推進している、新潟大学の研究室と連携して、2018年に交通安全プロジェクト\*3を立ち上げました。その成果として、2020年3月には高齢ドライバーの安全走行を促進・啓発する「ハンドルぐるぐる体操」\*4を開発しました。そして、2021年3月に新潟大学、北里大学、相模女子大学と共同で、ネットワーク上にバーチャル研究所『交通安全未来創造ラボ』\*5を創設しました。高齢ドライバー、幼児・児童、公共交通機関が不足し過疎化に悩む人々、訪日外国人など、生活や移動に不安や

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

不自由を抱えている一人ひとりに寄り添い、交通死亡事故ゼロ、誰一人取り残さないダイバーシティ交通社会を実現することを目的としています。

- \*1 「ハローセーフティキャンペーン」に関する詳細はこちらをご覧ください  
<https://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/HELLOSAFETY/>
- \*2 「おもいやりライト運動」に関する詳細はこちらをご覧ください  
<https://www.omoiyari-light.com/>
- \*3 交通安全プロジェクト トリトン・セーフティ・イニシアティブ- まち・生活・交通の安全な未来へ-  
ToLiTon (Town, Life and Transportation) Safety Initiative  
従来の交通安全の枠にとどまらず、「まち・生活・交通」を結び提案を目指すことから命名したプロジェクトです。
- \*4 高齢者交通安全「ハンドルぐるぐる体操」に関する詳細はこちらをご覧ください  
<https://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/HELLOSAFETY/TAISOU/>
- \*5 「交通安全未来創造ラボ」に関する詳細はこちらをご覧ください  
<https://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/HELLOSAFETY/LAB>

## 「おもいやりライト運動」

11月10日「いい点灯の日」の前後に、全国9地域で主体的に点灯呼びかけアクションを行いたいという皆さんをサポートしました。また、オンラインフォーラム「TRY-LIGHT ONLINE フォーラム」を12月に開催し、全国の参加者やジャーナリストとおもいやりライト運動らしく安全に楽しく行える活動を話し合いました。この内容はリアルタイム配信し、



主体的に点灯呼びかけアクションを全国で実施

視聴者からも運動に賛同するコメントを頂くことができ、参加者同士の繋がりが促進され、より一層活動を盛り上げることができました。

日産グローバル本社ギャラリーでは、年間を通して、ミスフェアレディが点灯呼びかけアクションに使うボードを掲げ「おもいやりライト運動」のプレゼンテーションを毎日夕暮れ時に実施しています。

こうした活動を通じて、企業やNPO、クルマファンなどに理解と実行を促してきた結果、「おもいやりライト運動」は市民の間に着実に浸透しつつあります。



「TRY-LIGHT ONLINE フォーラム」

## 「交通安全未来創造ラボ」

本ラボでは、大きな社会問題となっている高齢ドライバーの交通事故削減を優先課題として取り組んでいきます。今までの先行研究から、運転操作の誤りは、認知力や、筋力・視力などの基礎身体機能の低下が関連しあっていることが分かってきました。この関連を正確に解明すること、さらに、それらの低下を引き起こす背景として、生活習慣や文化、地域社会との繋がりがまでさかのぼって研究すること、そしてその研究成果を使って高齢ドライバーに健康で長く安全に運転してもらえるための交通安全ソリューションを創出することが本ラボのチャレンジになります。

したがって、ラボに参加する研究者は、生体医工学、医療衛生、生活・衣装デザ

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI103-3 GRI416-1

イン、社会デザインなど多岐に亘り、連携先は自治体、医療機関、教育機関、まちおこし団体など幅広くパートナーを発掘していきます。このように、いろいろな専門分野、地域、世代を融合する取り組み（“Diversified innovational method”）も本ラボの特徴です。

現在計画している研究テーマについては、すでに先行研究に着手しています。また新潟大学と日産自動車が共同制作した『ハンドルぐるぐる体操』は全国に普及させていくために、活動をすすめています。



実車を使い運転機能を計測



ドライビングシミュレータを使い視覚機能を計測

## 社会：社会との連携

日産は、クルマを取り巻く交通環境の情報を利用することで、より安全なクルマ社会を築くことができると考えています。官公庁や自治体、他企業と広く連携しながら、すべての人にとって、より安全で快適なモビリティ社会の実現を目指していきます。

### 先進事故自動通報システムSOSコール(ヘルプネット)を設定

交通事故や急病などの緊急時、事故の危険がある時、あおり運転時などに、専門のオペレーターへのデータ通信と音声通話を行うことができる先進事故自動通報システム「SOSコール」(ヘルプネット)を軽自動車では初めて「日産デイズ」で設定し、順次採用車種を拡大しています。交通事故などで、エアバッグが作動した際に自動的に通報するものと、SOSコールスイッチによる手動通報の2種類があり、通報後は、専門のオペレーターが車両から得た情報をもとに、消防指令センターや警察に迅速に連絡し、緊急車両の手配などドライバーのサポートを行います。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

## NASAの技術を活用した 自動運転の人工知能 (AI) 技術を開発

一般道路での完全自動運転実現に向けた課題解決のため、日産では「シームレス・オートノマス・モビリティ(SAM:Seamless Autonomous Mobility)」と呼ばれるシステムを開発しています。自動運転車による判断が困難な場合に管理者が遠隔操作でルートを作成・指示することで、事故、路上の障害など不測の事態に直面した際でも、クルマを安全に誘導できる手段を提供します。

## 新しいモビリティを活用したまちづくりの実証実験

2021年2月2日に3つの自治体と、日産を含めた8つの企業とで「福島県浜通り地域における新しいモビリティを活用したまちづくり連携協定」を締結しました。

本協定は、東日本大震災からの復興、ならびに、浪江町、双葉町、南相馬市が目指す、夢と希望のある未来の“まちづくり”において、各社が持つ資源、先進技術やノウハウを活用しながら、地域住民とともに創り上げていく、というものです。具体的には、新たな移動手段となるモビリティサービスの構築、再生可能エネルギーの利活用による低炭素化の取り組みと合わせ、コミュニティの活性化や強靱化の領域においても協業し、持続可能な“まちづくり”の実現を目指します。

浪江町では、全く新しい交通手段として、ビジネスや観光にも役立ち、さらにお年寄りなど「移動弱者」の方々にも優しいEVを活用したシャトルサービスなどを用いた実証実験「なみえスマートモビリティチャレンジ」を行いました。過疎化や高齢化による公共交通の縮小は日本の地方都市に共通する課題です。安全・安心で便利な新しいモビリティサービスの提供により、その課題を解決するとともに、より良い「まちづくり」のモデルケースとなるよう取り組んでいきます。

